

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 203-0031

所在地 東京都東久留米市南町1-13-38

評価機関名 株式会社ふくし・ファーム

認証評価機関番号

機構 04 - 134

電話番号 03-3332-3334

代表者氏名 加藤 正樹

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤 正樹	福祉	H0601051
	②	中野 航太	経営	H2001058
	③	伊瀬 卓	経営	H1801008
	④	倉重 由美子	福祉	H2101004
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	しおどめ保育園稲城			
事業所連絡先	〒	226-0822		
	所在地	東京都稲城市坂浜3-33-1		
	TEL	042-331-1888		
事業所代表者氏名	浅沼 るみ			
契約日	2023 年 9 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年 11 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 1 月 20 日			
自己評価の調査票配付日	2023 年 10 月 19 日			
自己評価結果報告日	2024 年 1 月 20 日			
訪問調査日	2024 年 1 月 26 日			
評価合議日	2024 年 2 月 16 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めて頂くため、評価の全体像や具体例を用いたわかりやすい資料を作成し、丁寧に説明を行いました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果は、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表によりわかりやすく報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>保育理念 ・子どもあるがままの姿や、思いを受け止め、ささえていく。 ・保護者や地域の子育てを支援しながら、地域全体で子どもを育てる環境作りに努める。</p> <p>保育方針 子ども一人一人を尊重し、一人ひとりを大切に受け止め、そのよさを生かし、そのらしさが発揮できるように寄り添う。 ・子どもをとりまく多くの人に愛され、あたたかい家庭的な雰囲気の中で人間としての尊厳が守られ、生き活きと活動できる環境を整える。 ・地域のにとびとともに分かち合う保育園として必要な子育て情報を提供し、ともに協力して地域全体で子どもを育てる環境作りを大切にする。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none">・子ども一人一人の個性を大切に、保育できる。・協調性があり、相手の意見を聞き、自分の意見を持っている人。・自分の役割を理解し、報連相を大切にできる人。・相手の立場に立って考えられる人。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>一人一人の子どもと丁寧に向き合い、個人差を大切にする。人はみな生まれながらに違いをもち、その違いを大切にしながら、一人ひとりの特性を理解し、その子どもにあった関わり方をしていくことが、一人ひとりを大切にできる。幼くても自分なりの心の世界をもった存在であることを尊重する。</p>

調査対象	調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。 [調査対象世帯数：115世帯(在園児141名)]
調査方法	園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関への郵送、または園内に設置した回収箱への投函により提出して頂くようにしました。
利用者総数	141
利用者家族総数(世帯)	115
共通評価項目による調査対象者数	0
共通評価項目による調査の有効回答者数	71
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	61.7

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じいらっしゃいますか」との質問に対して、「大変満足」53.5%、「満足」38%、「大変満足」と「満足」を合わせて91.5%の回答率となっています。「どちらともいえない」5.6%、「不満」1.4%、「大変不満」0%、無回答が1.4%でした。園のサービスに対する保護者の満足度が高いことが確認されました。個別設問では、問2「園活動への興味や関心を示し、学びや遊びを楽しんでいるか」について「はい」の回答率が98.6%で最も高く、問17「外部の苦情窓口にも相談できること伝えられているか」では「はい」の回答率が47.9%と最も低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	64	6	0	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の90.1%を占め、「どちらともいえない」が8.5%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は1.4%という結果でした。自由記述では、園の活動やプログラムについて満足を示す声が多く寄せられました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	70	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の98.6%を占め、「どちらともいえない」が1.4%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、子どもが園での学びや遊びを楽しむ様子について満足を示す声が多く寄せられました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	63	7	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の88.7%を占め、「どちらともいえない」が9.9%、「いいえ」が1.4%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、提供される給食やおやつについて多様な意見が寄せられました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	66	3	2	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の93%を占め、「どちらともいえない」が4.2%、「いいえ」が2.8%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、自然や社会との関りについて満足を示す声が多く寄せられました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	45	5	1	20
この項目では、「はい」と答えた方が全体の63.4%を占め、「どちらともいえない」が7%、「いいえ」が1.4%、「無回答+非該当」は28.2%という結果でした。自由記述では、保育時間の延長などへの対応について満足を示す声が複数寄せられました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	42	27	1	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の59.2%を占め、「どちらともいえない」が38%、「いいえ」が1.4%、「無回答+非該当」は1.4%という結果でした。自由記述では、災害や防犯などの安全面の対策について改善を期待する声が複数寄せられました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	64	7	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の90.1%を占め、「どちらともいえない」が9.9%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、保護者参加行事の開催日程などへの配慮について満足を示す声が複数寄せられました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	62	7	2	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の87.3%を占め、「どちらともいえない」が9.9%、「いいえ」が2.8%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、子どものことなどを職員へ相談できる環境について満足を示す声が複数寄せられました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	66	4	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の93%を占め、「どちらともいえない」が5.6%、「いいえ」が1.4%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、園内の清掃や整理整頓について多様な意見が寄せられました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	67	4	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.4%を占め、「どちらともいえない」が5.6%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	64	6	0	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の90.1%を占め、「どちらともいえない」が8.5%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は1.4%という結果でした。自由記述では、子どもの怪我や体調不良時の対応について満足を示す声が複数寄せられました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	47	12	1	11
この項目では、「はい」と答えた方が全体の66.2%を占め、「どちらともいえない」が16.9%、「いいえ」が1.4%、「無回答+非該当」は15.5%という結果でした。自由記述では、子ども同士のけんかなどトラブル対応について改善を期待する声が複数寄せられました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	68	3	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の95.8%を占め、「どちらともいえない」が4.2%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、子どもを尊重した職員の対応について満足を示す声が多く寄せられました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	58	9	0	4
この項目では、「はい」と答えた方が全体の81.7%を占め、「どちらともいえない」が12.7%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は5.6%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	47	18	5	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の66.2%を占め、「どちらともいえない」が25.4%、「いいえ」が7%、「無回答+非該当」は1.4%という結果でした。自由記述では、保育の考え方や指導内容について改善を期待する声が複数寄せられました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	49	7	3	12
この項目では、「はい」と答えた方が全体の69%を占め、「どちらともいえない」が9.9%、「いいえ」が4.2%、「無回答+非該当」は16.9%という結果でした。自由記述では、利用者からの不満や要望への対応について改善を期待する声が複数寄せられました。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	34	14	15	8
この項目では、「はい」と答えた方が全体の47.9%を占め、「どちらともいえない」が19.7%、「いいえ」が21.1%、「無回答+非該当」は11.3%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	園の保育理念や目標をしおりに記載するとともに、入園説明会で保護者に伝えていきます 園の保育理念を「豊かな心と感性を育てる」、保育目標を「子どもの主体性を育てる保育・子ども一人一人の特性に応じた保育・自発的な遊びの中で子どもの力を引き出す保育・子ども同士の関わりを通し、コミュニケーション能力を育てる保育」と定めています。こうした内容について、職員の理解を深める取り組みとして、職員会の中で説明を行っています。加えて、保護者に対して、重要事項説明書・園のしおりに記載するとともに、年度初めの懇談会や入園説明会などで、伝えていきます。	
	園長の役割や責任は職務分担表に記載し、職員会議などで職員に伝えていきます 園長は、「職員の意欲と意識の向上及び地域の情報収集」を最も重要な役割だと考えています。その役割と責任について、職務分担表に記載し、職員会議などで職員に伝えていきます。園長直近で指揮した事例として、「行事の充実」などがあります。今年度より、保育参観・デイキャンプを新たに開始しています。さらに、今年度より、系列園の園長が集まる会議を開催し、理事長から法人の方針について説明を行う機会を設けています。	
	園の重要な案件は主にリーダー会議で検討しています 園の重要な案件を検討する場として、園長・副園長・主任が参加するリーダー会議を設けています。最近、保護者に対して周知したサービス変更などの事例として、「運動会・お楽しみ会の開催方法」などがあります。そのような事例については、保育アプリによる配信で周知しています。また、地域住民に対して「イベント開催時のお知らせ(騒音等)」を行っています。こちらは、掲示や手紙のポスティングにより周知しています。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者のニーズは、行事アンケートや個人面談により把握し、それぞれに対応しています</p> <p>利用者のニーズは、行事アンケート・個人面談(年1回+希望により)により把握し、職員会議(年間反省)で職員に伝えています。その上で、「園内駐車場の使用方法」に取り組んでいます。安全管理のため、送迎時の車や自転車の導線を見直しています。また、個別面談(年2回)などで職員の意向を把握しています。職員の要望を受けて、「子育て広場」を休憩スペースとして活用しています。</p> <p>私立園長会の看護師部会に所属し、緊急対応などについて情報共有を進めています</p> <p>地域の福祉のニーズは、私立園長会や地域教育懇談会への参加により把握し、職員会議で職員と共有しています。私立園長会は、2時間制で、前半は市からの連絡を、後半は園同士の情報共有や研修を行っています。当園は看護師部会に所属しており、緊急対応などについて情報共有を進めています。以上のように事業環境を分析した結果、「事故ケガ報告及び減少に向けた対策」や、「園児の定員割れ」を優先度が高い課題として捉えています。</p> <p>単年度の計画は園長を中心に作成し、職員全体会で職員へ伝えています</p> <p>単年度の計画は、前年度3月に園長を中心に作成し、事務室キャビネットに保管するとともに、年度初めの職員全体会で職員へ伝えています。なお、予算編成は、園長・経理が担当しており、進捗状況を職員会議にて各担当者より報告しています。計画を見直す場合は、職員会議・リーダー会議で検討し、園長・副園長が中心となって判断しています。具体的な見直しの例として「玄関鍵の改修」などが挙げられます。</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

「職員として」という資料を作成し、守るべき法や規範について示しています

法人職員または保育職員として守るべき法や規則について、「職員として」という資料を作成し、事務室内キャビネットに保管するとともに、全職員に配布しています。「職員として」には、保護者対応・身だしなみ・園児への言葉かけ・職員同士の言葉かけなどの12の項目を設けて、職員に示しています。また、年1回セルフチェックシートを実施し、自己の言動や行動を振り返っています。実施後は、園長が集計し個別にフィードバックしています。

不適切保育の防止に向けて「NG言葉と魔法の言葉」を職員に配布し理解を深めています

苦情があった際には、主任が受け付けし、園長が解決にあたっています。そのような体制や役割について重要事項説明書で保護者に伝えています。なお、苦情や要望があった際には、利用者に直接口頭で伝えるほかアプリ配信などで回答しています。また、不適切保育の防止に向けて、「NG言葉と魔法の言葉」を記載した資料を職員に配布し、理解を深めています。そのほか、虐待に関する職員の理解を深めるために、市の虐待研修に参加し、対応方法について学んでいます。

子育て支援事業「なかよしひろば」を開催し、地域の子育て世代を支援しています

地域貢献の取り組みとして、子育て支援事業「なかよしひろば」を年20回程度(4月と8月を除く毎月開催)実施しています。具体的な内容として、離乳食講座・夏のスキンケア講座・クリスマスアレンジ講座・作って遊ぼうなどを企画し、ホームページ・機関誌を子ども家庭センターなどに設置することで周知しています。今後は、文化センターや図書館など、設置箇所を増やしていきたいと考えています。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○●●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>園のリスクはリーダー会議で検討し、浸水被害の対策や避難訓練の見直しに繋がっています</p> <p>運営に係るリスクとして、「園児の定員割れ」、「浸水被害に対するの対策」などを掲げ、リーダー会議で対策を検討しています。具体的な対策として、「浸水被害に対するの対策」について、専門業者からアドバイスを受けながら、水の流れや排水管などをチェックしています。また、今年度、避難訓練を見直しています。避難訓練の意味を再周知するとともに、さまざまなケースを想定して実施していました。今後、ヒヤリハットの提出推進と分析方法を確立させていきたいと考えています。</p> <p>「個人情報取扱規程」及び「個人情報保護方針」に沿って個人情報を取り扱っています</p> <p>法人が作成した「個人情報取扱規程」及び「個人情報保護方針」に沿って個人情報を取り扱っています。また、職員とは、入職時に職員誓約書を取り交わして情報管理や文書管理の遵守を求めています。また、個人情報や機密性の高い情報を含む文書は、事務室内キャビネットに保管するとともに、電子データには、職員ごとにID及びパスワードを付与するなどのアクセス制限を設けています。そのほか、個人情報の利用目的や開示請求の方法については、重要事項説明書に明示しています。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-5		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

キャリアパスシートは5階層で設定し、入職時の研修や個人面談で職員に伝えています

職員の採用に際して、職員の人柄や年齢構成などを重視しながら、求人専用ホームページ・ハローワーク・求人誌・人材派遣会社を活用するなど、求職者の応募を促しています。なお、キャリアパスシートは、5階層で設定しており、入職時の研修や個人面談で職員に伝えています。そのほか、職員一人ひとりの気づきや工夫を活かすために、職員会議・カリキュラム会議・乳幼児会議などにおいて意見交換を行っています。

「研修計画」を作成し、1年間で職員個々が受ける研修を示しています

職員育成の手段として「研修計画」を作成しています。なお、「研修計画」は、面談などで職員のニーズを把握しながら作成しています。職員が受講した研修内容は、研修報告書に記録し、必要に応じて職員会議で報告することで、他の職員と共有しています。今年度は、職員個々のスキルに合わせた研修を計画するとともに、研修後には報告書を残すように再徹底しています。今後に向けて、園内研修の充実を図っていきたいと考えています。

今年度より、新たに乳児リーダーと幼児リーダーを設定し組織力を高めようとしています

福利厚生として、エプロン支給・インフルエンザ予防接種補助のほか、年間休日125日と多めに設定しています。また、有給休暇の取得率を高めるために、シフトを組む前に有給を取りたい日を記入してもらい、希望に沿うよう配慮しています。そのほか、組織力を高めるため、今年度より、乳児リーダーと幼児リーダーを設定しています。加えて、保健衛生・教材・環境・研修・地域支援などの係を設定し、個別に取り組んでいます。今後自己評価表を見直していこうと考えています。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度において、「感染症の影響で中止していた行事の再開」を重要課題の一つと掲げていました。そこで、園長が中心となり、複数の行事の再開に取り組みました。職員と打ち合わせを重ね、内容や実施方法について決定しています。取り組みの結果、デイキャンプ・保育参観について開催することができました。また、夏祭りでは、子ども対象から保護者を招いて実施するなど、対象者を拡大して実施することができました。今後も徐々に行事を充実させていきたいと考えています。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

感染症の影響で中止になっていた行事の再開に取り組み、2種類の事業を新たに開催しています。特に、デイキャンプについては、内容を検討する際に子どもの意見を取り入れるように工夫しています。一方で、開催にあたり、職員の周知などに時間がかかり、当初予定していた時期が遅れてしまったことを課題として認識しています。今後、計画的に進めることで、季節行事などの成果が十分発揮されると思われます。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度において、「保育士の質の向上」を重要課題の一つと掲げていました。そこで、職員個々のスキルに合わせた研修を計画するとともに、研修後には報告書を残すように再徹底しました。また、避難訓練を見直しています。避難訓練の意味を再周知するとともに、様々なケースを想定して実施していました。こうした取り組みにより、職員の質の向上が図られたと感じています。

目標の設定と 取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職員の育成に向けて、避難訓練の見直しや学びの共有に取り組んでいます。取り組みにより一定の成果は得られたと評価していますが、保育観の統一については今後も課題として取り組んでいく予定です。園内研修の内容や実施方法について、見直しを行うとともに、他園への見学を通して、職員の意識を高めていきたいと考えています。現状の職員のニーズを把握しながら、計画的に取り組んでいくことが期待されます。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものとしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>リーフレットやホームページを通じ、園の方針・目標・概要などを紹介しています</p> <p>園の情報を提供する媒体として、リーフレットを発行し、定員・所在地・保育目標を紹介しています。特に保育目標の中では、「生きる力の基礎を育てる」ことについて、具体的な関わりなど保育内容が記載されています。また、ホームページには、保育理念・保育方針・保育目標・施設紹介・園の概要・園の一日・年間行事・子育て支援事業などのコンテンツを設け、月に1回更新しています。動画を活用して施設を紹介するなど、園の保育内容をわかりやすく配信しています。ホームページからも園のSNSにアクセスできるようにしています。</p> <p>市のホームページや子育て情報誌、リーフレットの配布等により園情報を発信しています</p> <p>園の情報は、行政や関係機関などに提供し、市のホームページのほか、市が発行する子育て情報誌や子育て支援通信にも関連する情報が掲載されています。また、リーフレットについては、市役所の子育て支援課・親子包括センターなどの関係機関や、総合体育館・子ども家庭センター・市民文化施設などの園外施設にも置いています。加えて、園で開催している広場事業や一時保育の利用者にも配布するなど、園の情報を幅広く地域に届けています。</p> <p>見学会を設定して見学希望者を受け入れ、保育理念や環境などの特長をアピールしています</p> <p>見学者対応は、主に園長・副園長・主任保育士が担当して見学会を行っています。日時については、希望に合わせて対応していますが、実際の保育を見てもらえるよう、可能な限り午前中の見学を案内しています。また、体験保育などの場面でも保育内容を紹介しています。見学の際は、保育理念のほか、自然豊かな環境など園の特長について分かりやすく説明しています。利用希望者の多様なニーズに配慮して、日本語が得意ではない見学者には、英語が堪能な職員が対応したり、翻訳アプリを活用したりしながらコミュニケーションを図っています。</p>		

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園前に説明会を行い、利用開始の準備について保護者に説明し同意を得ています</p> <p>入園が内定した利用者には、園のしおり・ほけんのしおり・重要事項説明書・児童票・緊急連絡票・健康調査票・必要保育時間届・食材摂取調査表・離乳食調査表などの書類を園から郵送しています。また、入園説明会と個別面談を2月下旬の土曜日に開催し、持ち物の見本を用意しながら、保育内容を分かりやすく伝えています。その際、サービス内容については、重要事項説明書で説明し、プライバシー保護については、個人情報保護方針で同意確認を得ています。サービス内容に対する保護者の意向については、個別面談で把握し、面談シートに記録しています。</p> <p>親子とも安心して園生活に入れるよう、7日間程度の慣れ保育期間を設定しています</p> <p>入園前に提出する健康調査表や児童票をもとに、アレルギーや既往歴などの子どもの健康状態を把握しています。また、子どもの不安やストレスが軽減されるように、7日間を目安に慣れ保育期間を設けています。その際、使い慣れたタオル・おくるみ・ぬいぐるみなどの持ち込みを可能にし、子どもが安心できるようにしています。保護者に対しては、降園時にその日の様子をいねいに伝え、理解や安心を深められるようにしています。</p> <p>退園や転園をする際は、作品帳や手づくりのアルバムをプレゼントしています</p> <p>卒園前に退園や転園をする園児には、子どもの制作をまとめた作品集のほか、担任からのメッセージを載せた手づくりのアルバムをプレゼントしています。子どもの年齢によっては、クラスの子どもたちからの手紙などを渡すこともあります。園児の情報については、転園先から電話などで問い合わせがあった場合は、口頭で引き継いでいますが、現在は明確なしくみがないため、配慮が必要な子どものフォローについて転園先へ情報を引き継ぐしくみを確立させたいと考えています。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	13/13
3 個別状況に応じた計画策定・記録			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
ICTアプリの連絡帳機能を活用し、保護者と子どもの情報を共有しています 子どもの心身状況や生活状況などを把握するため、0・1・2歳児クラスでは、保育日誌に子ども一人ひとりについての記録欄を設けています。あわせて、ICTアプリの連絡帳機能を活用し、保護者と子どもの情報を共有しています。子どもの個別の保育目標については、児童票・月案指導計画・個別カリキュラムに記載するとともに、家庭や保護者の個別のニーズや支援方針は、面談シート・面談記録に記載しています。児童票は、0・1歳児は毎月、2歳児は4ヶ月毎、3・4・5歳児は6ヶ月毎に集約しながら記録しています。			
全体的な計画や年間指導計画を保護者会で説明し、個別指導計画は面談で伝えています 全体的な計画を年度毎に見直しをするとともに、それに基づき、年・月・週を単位として指導計画を作成しています。個別の指導計画は0・1・2歳児クラスおよび、個別支援の必要性が認められる子どもを対象に作成しています。4月の保護者会において、園長から全体的な計画の説明を行うとともに、クラスの担任から年間指導計画について説明しています。さらに、個別の指導計画については個人面談で説明しています。加えて、月のねらいについては、各クラスのおたよりで毎月紹介しています。なお、指導計画は、職員会議などで適宜見直しを行っています。			
職員会議や朝礼などの各種会議を開催し、職員全員で情報を共有しています 職員間で子どもに関する情報を共有するために、月1回、園長・副園長・主任・常勤職員(保育士・看護師・栄養士)が参加して職員会議を開催しています。加えて、園長主任会議・給食会議・カリキュラム会議・乳児・幼児会議・ケース会議なども定期的に開催しています。そのほか、毎日10分～15分程度の朝礼を行っています。日々子どもや保護者の状況については、申し送りノートやICTアプリで情報共有しています。子ども一人ひとりに対する理解を深めるために、乳児・幼児会議や職員会議において、事例を持ち寄り話し合う機会を設けています。			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>子どもの羞恥心に配慮し、着替えをする際の環境を整えています</p> <p>子どもの羞恥心に配慮し、着替えをする際には、パーテーションやカーテンで目隠しをするとともに、5歳児クラスから男女に分かれて着替えを行っています。また、着脱時に全裸にならないよう、ラップタオルを活用しながら着替えを行っています。加えて、性別の違いを意識する取り組みとして、5歳児クラスを対象に看護師よりプライベートゾーンの大切さについて話をしています。そのほか、0歳児のオムツ交換をする際は、他児の視線が届かない専用スペースで行っています。</p> <p>子ども一人ひとりを尊重し、子どもと保護者の価値観に寄り添っています</p> <p>子ども一人ひとりを尊重する姿勢を子どもの権利マニュアルに示すとともに、職員会議の中で議題に上げ、職員間で理解を深めています。その際に、乳児期から子どもに同意を得る大切さを改めて学び、実践に取り入れています。子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮するために、行事アンケート・個別面談などにより日常的なサービスに係る保護者の意向を確認しています。具体例としては、苦手な食材についての食べさせ方や、水分補給のしかたなど、各家庭の食習慣に寄り添って対応するとともに、虫よけスプレーの塗布などについて個別に対応しています。</p> <p>虐待については、セルフチェックリストを活用し、自らの振り返りを行っています</p> <p>虐待や育児困難などの事案については、虐待防止マニュアルに則って対応しています。また、自治体や専門機関が主催する虐待防止関連の研修に積極的に参加しています。加えて、全国保育士会「人権擁護のためにセルフチェックリスト」活用し、自らの行動を振り返るとともに、園長との面談を行っています。そのほか、虐待に関するニュースなどが報道されたり、市からの通達があった場合は、回覧や朝礼で内容を伝え共有し、職員間で意識を高めています。</p>			

サブカテゴリ-6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリ-6の講評	
<p>マニュアルを整備し、業務の標準化を図っています</p> <p>業務の標準化を図るため、法人として保健衛生マニュアルを整備するとともに、園では独自に、保健衛生マニュアル・事故防止マニュアル・事故発生時対応マニュアル・虐待防止マニュアルなどを作成しています。現在、マニュアルに沿った業務の実施状況について定期的に確認ができていないため、今後は確認の機会を設けていく方針です。</p> <p>マニュアルを定期的に見直すとともに、変更点があれば職員や保護者に周知しています</p> <p>事故防止・事故発生時対応マニュアル・虐待防止マニュアルなどについて、リーダー層で定期的に見直しを検討するとともに、変更点があった場合は、職員会議で周知しています。また、保護者に係わるサービスの基本事項に変更があった場合は、園のしおりを改訂し、保護者に伝えていきます。</p>	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ-4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当		
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当		
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当		
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当		
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当		
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当		
評価項目1の講評				
<p>子どもがじっくりと好きな遊びに集中できるよう、環境設定を工夫しています</p> <p>保育室内には、生活目的に応じた着替え・午睡・食事などのコーナーや、遊びに応じたままごと・絵本・机上あそび・構成あそびのコーナーを設けています。子どもが楽しんでいる遊びを中断せず、継続できるようなスペースを確保することを大切に捉え、環境設定に努めています。また、子どもの行動範囲に制限を設けず、状況に応じて好きな場所で過ごせるようにしています。さらに、子どもが自由に使える玩具棚を設置し、玩具や教材を自ら選択して使えるようにしています。玩具についても、子どもが集中してじっくり取り組めるようなものを用意しています。</p> <p>郷土料理を毎月献立に取り入れ、日本地図を活用し場所やその土地の風土を伝えています</p> <p>異年齢交流については、朝夕の合同保育時や、一緒に散歩に行く機会を設け、年齢の違う子ども同士が関りをもてるようにしています。その中で、年上の子どもに憧れる気持ちや、年下の子どもを思いやる気持ちを育むことができるようにしています。国内各地の文化にふれる機会として、献立に郷土料理を取り入れるとともに、正月遊びなどを通して日本の伝承遊びに触れています。一方、保育室に世界地図を貼り、日本以外の国にも興味を持てるようにしています。外国籍の保護者がいることから、自然な関わりの中で、多様性を学んでいます。</p> <p>小学校と連携し、学校訪問に出かけ、5歳児と小学生が交流する機会を設けています</p> <p>特別な配慮が必要となる子どもがいる場合、保育士を加配して体制を手厚くするとともに、パーソナルスペースを確保をしています。また、療育センターなどの専門機関と連携し適切な援助を心がけています。発達の過程で生じるかみつきなどについては、子ども同士が密集しないよう配慮しつつ遊びを工夫して予防に努めています。怪我や事故が発生した際は、ヒヤリハット報告書・事故報告書を作成し、保育会議において再発防止策を検討しています。5歳児は就学に向け小学校見学の機会を設け、小学生と関わり、小学校生活がイメージできるようにしています。</p>				

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

ICTアプリの連絡帳機能を活用し、保護者と子どもの情報を共有しています
 登園時には、健康状態・機嫌・睡眠時間などを保護者へ確認するとともに、必要な情報をICTアプリに記録しながら職員間で共有しています。0・1・2歳児クラスでは、ICTアプリの連絡帳機能を活用し、家庭での様子を把握するとともに、園からは、食事の量・睡眠・排便・体温・その日の様子を伝えています。降園時には、当日の子どもの特徴的なエピソードを対面で報告しています。また、ドキュメンテーションを、ICTアプリを活用して配信するほか、玄関に「活動の記録」としてクラスごとに掲示し、全クラスの様子がわかるようにしています。

基本的な生活習慣が身につけることができるよう、具体的な指導方法を設定しています
 子どもの発達段階に応じた支援の方法を全体的な計画や年間指導計画に示しています。具体的な取り組みとして、食事指導では、3歳児クラス後半に箸の導入を計画し、その前段階として遊びの中でトングを使用したポンポンつかみゲームを取り入れています。排泄指導としては、子どもの排尿間隔を把握するとともに、午睡明けにトイレに座ることから始めています。着替え指導では、ファスナー・ボタンを使った遊びを取り入れ、手指の力をつけています。歯磨きは行っていないため、食後にブクブクうがいをして口腔内を清潔にする習慣をつけています。

午睡は、一人ひとりの生活リズムや年齢、活動内容によって柔軟に対応しています
 午睡は、一人ひとりの生活リズムや年齢、活動内容によって柔軟に対応しています。デイリープログラムでは、乳児の午睡時間を、12時から14時30分、幼児の午睡時間を、13時から14時30分で設定しています。昨年度までは早めに入眠していましたが、活動時間の見直しを行い、午睡時間を繰り下げています。寝具は、園の敷布団と綿毛布を使用し、カバーのみ保護者が用意しています。なお、午睡時間に眠れない・眠りたくない場合は、4・5歳児保育室などで過ごせるよう配慮しています。5歳児は就学に向け、年明け頃から午睡をなくしています。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

運動会の競技やデイキャンプの内容を自分たちで決め、主体性や自主性を育てています
 子どもの集団活動として、3・4・5歳児は体操教室を行っています。その中で習得したことを運動会の競技の中に取り入れ、子どもが主体的かつ自信を持って取り組めるようにしました。競技の選曲も自分たちで行っています。また、今年度初めて5歳児がデイキャンプを行い、宝探しゲームや夕飯作りをして楽しみました。その際は、献立やゲームの内容に子どものアイデアを取り入れ、主体性が発揮されるように取り組みました。子どもが自分の気持ちを調整できる力を身に着けることができるよう、クラスの集まりなどでルールを説明する機会も設けています。

さまざまな教材を用意し、子どもが自分なりのイメージで表現できるようにしています
 子どもが言葉に興味を持てるよう乳児期からさまざまな場面で丁寧な声掛けを行うとともに、絵本をたくさん読み言葉のやり取りを楽しめるようにしています。また、休みの日に経験したことを友だちの前で話す機会を作り、子どもが自分の意見を発表する機会を設けています。美しさなどに対する感性を育む機会としては、きれいなもの・美しいものを園内に飾り、日常的に触れる機会を設けています。ブロック・粘土・絵の具・クレヨン・空き箱・テープなどを準備し、感じたことや考えたことを自分なりのイメージを持ち、自由に表現ができるようにしています。

戸外活動で体を動かして遊ぶほか、虫探しや飼育を通じ自然にふれています
 園庭では、築山や大型遊具のほか、鬼ごっこ・ボール・砂場などで遊んでいます。また、2階部分にも乗用遊具を設置した屋上園庭があり、子どもが思い切り身体を動かして遊ぶ環境が整えられています。散歩には週2～3回程度出かけ、公園・神社・消防署・陸橋などを訪れています。散歩先では、遊具で遊ぶほか、ダンゴムシ・バッタ・カマキリなどの虫探しもしています。園内では、メダカやエビを飼育し、観察や世話を通して命の大切さを学んでいます。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

おばけやしきやデイキャンプの内容は、子どもたちが話し合っ内容を決めています

季節や文化・伝承に親しむ機会として、八十八夜・七夕・十五夜・クリスマス・節分・ひな祭りなどの行事を行っています。また、子どもの成長や保育の成果を発表する機会として、運動会・お楽しみ会を行っています。行事への興味や関心を高めるため、行事や季節に合わせて園内の装飾を変え、職員が製作したものに加え子どもたちの作品も飾っています。さらに、みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるよう、ハロウィンのおばけやしきや、5歳児のデイキャンプなどの行事については、子どもたちがアイデアを出し合っ内容を決めています。

保護者に対し行事アンケートを実施し、次開催の内容や実施方法を見直しています

保護者の理解や協力を得られるよう、年間行事予定表を在園児には2月、新入園児には4月に配布し、予を立てやすくするとともに、園だよりやクラスだよりなどで、各行事の目的・効果・取り組みのようすなどを伝えています。保護者が参加したり見学したりする、夏祭り・運動会・お楽しみ会などのほかに、保護者が参加しない活動についても写真販売やドキュメンテーションなどによりその様子を伝えています。保護者が参加した行事については、アンケートを実施して保護者の声を受け止めつつ、次開催の内容や実施方法の見直しにつなげています。

職員の出し物や、誕生日メニューの食事を用意して誕生日児をお祝いしています

誕生日会を月例で開催し、全園児が集まって誕生日児のお祝いをしています。会の中では、誕生日児へのインタビュー・歌・職員からの出し物などのプログラムで楽しめるようにしています。また、誕生日会にちなんで給食は、型抜きした野菜やチーズなどを盛り付け趣向を凝らすとともに、おやつもホットケーキなどの誕生日メニューを提供しています。さらに、写真・手形・身長体重・担任からのメッセージを添えた誕生日カードをプレゼントするとともに、誕生日児が主役になって喜びを感じられるよう、誕生日当日には、洋服にシールを貼って1日を過ごしています。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	

●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

子どもが心身ともに落ち着けるよう、環境設定を工夫しています

園内は木を基調として設計されており、装飾なども色使いを考慮し、落ち着いた雰囲気になるようにしています。また、廊下に木製ドームを置いたり、保育室の中をコーナーごとに区切りたりして、子どもが心身ともに落ち着けるような環境づくりをしています。さらに、活動内容や子どもの様子に合わせた職員配置を行い、よりよい対応ができるよう体制を整えています。子どもが疲れた際に身体を休めることができるよう、絵本コーナーのほか、段ボールや牛乳パックなどで作ったパーテーションを活用し、パーソナルに使えるスペースを用意しています。

延長保育時間帯は、年齢に合わせた玩具を用意し、落ち着いて過ごせるようにしています

18時から19時の延長保育時間は、3歳児室を使用して合同で行い、乳児・幼児それぞれの担任と、非常勤職員を配置しています。玩具は、パズル・カードゲーム・折り紙などの落ち着いて遊べるものを年齢に合わせて用意するとともに、スキンシップを多くしながら、ゆったりと安心して過ごせるよう心がけています。補食を提供する際には、小さめのおにぎり・サンドイッチ・市販の菓子など、家庭での夕食に支障のない量を提供しています。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

食事の際に席は固定せず、子どもが好きな友達と楽しく食べられるようにしています
 食事は、各クラスの保育室において、数人ずつテーブルに着いて食べています。3歳児以上のクラスについては席を固定せず、その日ごとに気の合う友達と一緒に楽しく食べられるようにしています。また、2歳児以上のクラスについては、職員も一緒に席に着き、子どもと同じ食事を食べています。テーブルの上には、散歩の際に摘んできた花を飾るなどの雰囲気づくりをするとともに、食事介助をする際は無理強いなどはせず、食育目標のひとつでもある「楽しく食事をする」ことを大切にしながら寄り添っています。

献立は、旬の食材を使用し、添加物を使わないようにして作成しています
 献立を作成する際は、旬の食材を使用し添加物をなるべく使わないようにしています。栄養士は、一日おきに保育室に赴き、喫食状況を確認するとともに、子どもが食べやすい大きさに提供できるよう心がけています。また、食器や食具も子どもに合ったものを用いて提供するようにしています。行事に際しては、七夕・十五夜・七草などの伝統行事を中心に、子どもが食べやすいように現代風にアレンジして提供しています。食物アレルギーのある子どもについては、除去食や代替食を提供しています。調理・配膳の際はマニュアルを徹底し、誤食の防止に努めています。

旬の食材に触れ食事への興味関心を引き出すことを大切に、食育活動に取り組んでいます
 食育活動では、旬の食材に触れ、食事への興味関心を引き出すことを大切にしています。畑ではナス・ピーマン・ブロッコリー・タマネギ・サツマイモを栽培し、味噌炒め、塩昆布あえなどの料理に取り入れています。また、1歳児からエノキ裂きなどを経験するとともに、5歳児では包丁を使用してカレーづくりを行っています。さらに、三色食品群を知らせるほか、献立に郷土料理を取り入れ、その土地を紹介する中で、食文化や栄養に関する知識と関心を深めています。そのほか、地域の生産者と協力し、地元の特産でもある稲城梨やみかん狩りを行っています。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

避難訓練を月例で行うほか、防災訓練や不審者対応訓練を行っています
 子どもが自身の健康や安全に関心を持てるよう、火災や地震を想定した避難訓練を月例で行っています。また、ハザードマップ上では危険区域に該当しませんが、大雨により玄関が浸水したことから、今後は水害を想定した訓練も計画に盛り込むことを予定しています。さらに、警察の協力により交通安全教室を実施するとともに、園内外の危険箇所については、都度声をかけ子ども自身の意識を高め、事故や怪我の防止に努めています。健康指導では、看護師による歯磨き指導・咳エチケット・手洗い指導を行い、虫歯予防や風邪予防に対する関心を深めています。

保護者に保健情報を提供するとともに、職員は感染対策やSIDSの予防に努めています
 子どもの健康状態を把握するため、内科医による健診を0歳児は毎月、1歳児以上は年2回行っています。また、歯科医による歯科健診を年1回行っています。加えて、毎月身体測定を行うとともに、カウプ指数を算出し、基準値を超える場合は健診の際に嘔吐医に相談しています。与薬については基本的に行っていませんが、園でのケガや、熱性けいれん・アトピー性皮膚炎など医師の指示がある場合は、与薬預かり票の提出とともに薬を預かるようにしています。医療ケアの必要な子どもについては、主治医と連携しながら受け入れています。

保護者に保健情報を提供するとともに、職員は感染対策やSIDSの予防に努めています
 保護者と連携して、子どもの健康維持に取り組むため、毎月保健だよりを発行し、健康管理や流行する感染症などについて伝えていきます。また、保護者から健康に関する質問があった場合は、個別に対応しています。感染症が発生した場合は、ICTアプリで配信するとともに、玄関に掲示を行い、保護者に情報提供しています。一方、職員は感染症の流行やSIDSの発生を予防するため、職員会議などで理解を深めるとともに、嘔吐処理や応急手当の手順を確認しています。午睡時には、見守りカメラに加え、視診によるチェックを行い健康管理に努めています。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

個別面談や行事アンケートにより、サービスに係る保護者のニーズを確認しています
 子どもと保護者に全職員で寄り添うことを大切に、年度初めの職員会議で共有するとともに、電話対応や言葉遣いなど具体的な接遇方法も含めて確認しながら職員間で理解を深めています。また、必要保育時間届調査票や個別面談により、保護者の子育てに対する考え方や就労状況などを把握しています。個別面談は年2回行い、内容は面談シートに記入しています。さらに、行事アンケートにより、行事や日常的なサービスに係る保護者のニーズを確認しています。

保育参加と保育参観の後に個別面談を行い、保護者と子どもの姿を再確認しています
 保育参加と保育参観を、それぞれ年1回ずつ、各クラスごとに期間を設けて実施しています。保育参加の際には給食の提供もしています。どちらも終了後に個別面談を行い、子どもの姿について互いに理解を深めるとともに、保護者の養育力の向上につなげ、安心して子育てができるようにしています。また、設定した期間内に都合が見つからない場合には、個別に日にちを設けています。そのほか、職員一人ひとりを知ってもらうために、園内に職員の写真を掲示するとともに、4月の園だよりにおいて全職員の紹介をしています。

保護者会では、子育ての悩みなどを中心に意見交換をしています
 保護者会を年2回実施し、各クラスごとに保護者が集まり、担任からクラス目標や子どもの姿を伝えていきます。また、保護者同士も自己紹介・子ども紹介を行うほか、その年齢ならではの悩みなどをテーマに意見交換を行っています。具体例として、食事・トイレトレーニング・イヤイヤ期の対応方法などを主なテーマにあげ、直近では、「睡眠時間と食欲の関係」について話を深めました。年度後半の保護者会では、一年間で成長した姿を共有するとともに、進級・就学に向けた内容で話をしています。園長は、各クラスを巡回しながら、園全体の話も伝えています。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

地域でのさまざまな体験を通して、子どもの世界を広げています
 地域のオープンガーデンのお宅を訪問して、庭の植物や池の鯉を見学させてもらう機会を設けています。また、近隣の牧場を訪れ、牛・うさぎ・にわとりなどと間近に触れ合っています。さらに、消防署へ散歩に行った際は、消防士と関わるとともに、消防自動車に試乗させてもらう機会もあります。そのほかにも、図書館で大型絵本を借りてきたり、小学校探検に出かけたりしています。そのようなさまざまな経験と地域環境に触れることで、子どもの世界を広げられるようにしています。

地域の人や、職場体験の学生などを受け入れ、さまざまな人との交流を図っています
 子どもが職員以外の異なる年齢や、さまざまな職業の人に触れる中で、多様性の理解を深めていくことを促しています。具体的な取り組みとして、ポニーの乗馬体験に地域の親子の参加を呼びかけ、園児と一緒にイベントを楽しんでいます。また、運動会の予行練習に近隣のグループホームの利用者を招待し、練習風景を見学してもらっています。さらに、保育実習生・中学生の職場体験・高校生のボランティアを受け入れ、一緒に遊んだり、おやつを食べたりしながら交流を図っています。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもが十分に身体を動かして楽しむことができるような環境設定を行っています	
内容①	「体を動かすことが大好きで笑顔いっぱいの子ども」を保育目標のひとつに掲げ、子どもが十分に身体を動かして楽しむことができるよう環境を整えています。園庭には築山を備えるとともに、ネットを組み合わせた大型ジャングルジムを設置し、よじ登る・ぶら下がる・滑るなど、さまざまな動きを通して体幹を鍛えられるようにしています。また、2階部分には人工芝の屋上庭園を整備し、2階に保育室がある0・1・2歳児が安心して遊べるようにし、階下に降りる際は、大型スロープを利用して安全かつスピーディに出られるようにしています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	食育活動に力を入れ、さまざまな場において食への興味関心を育てています	
内容②	園庭の横には広い畑があり、子どもたちが野菜を育てるとともに、収穫した野菜は料理に取り入れて皆で美味しく食べています。また、地域の特産品でもある稲城梨やみかん狩りに出かけ、身近な農産物に触れる機会も設けています。食育活動も積極的に取り入れ、1歳児から野菜に触れ、5歳児ではカレーづくりなどを行い、八十八夜や五味体験も行っています。給食室と廊下の境は大きなガラス張りになっており、子どもたちが毎日給食室を眺めながら、調理職員が働いている様子や食事を作っている過程を見ることができ、食に対する興味関心を育むことができます。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-1-1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる
タイトル③	研修やセルフチェックシートの活用により不適切保育を防止しています	
内容③	法人職員または保育職員として守るべき法や規則について、「職員として」という資料を作成し、事務室内キャビネットに保管するとともに、全職員に配布しています。「職員として」には、保護者対応・身だしなみ・園児への言葉かけ・職員同士の言葉かけなどの12の項目を設けて、職員に示しています。また、年1回セルフチェックシートを実施し、自己の言動や行動を振り返っています。実施後は、園長が集計し個別にフィードバックしています。そのほか、虐待に関する職員の理解を深めるために、市の虐待研修に参加し、対応方法について学んでいます。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	充実した園庭での活動や地域との交流など、自然豊かな環境の中で、さまざまな経験を通じて子どもの世界を広げられるようにしています
	内容	起伏に富んだ丘陵地を生かした敷地に、子どもたちがのびのびと遊べる保育環境を整備しています。園庭には人工芝を敷いた2基の築山を備え、デザイン性あふれる大型遊具や砂場を設置しています。また、近隣の民家を訪問して、オープンガーデンにある植物や池の鯉を見学させてもらったり、消防署へ散歩に行った際は、消防自動車に試乗させてもらったりしています。さらに、近隣の牧場を訪れ、牛・うさぎ・にわとりなどと間近にふれあう機会も設けています。自然豊かな環境の中で、さまざまな経験を通じて子どもの世界を広げられるようにしています。
2	タイトル	献立に日本各地の「郷土料理」を取り入れるほか、五味やお茶の飲み比べを行うなど、食に関わる活動に積極的に取り組んでいます
	内容	毎月の献立の中に各都道府県の郷土料理を取り入れ、日本地図を活用して場所やその土地の特産品を伝えています。地図には園のマスコットキャラクターの旗を立てるなど、子どもたちが楽しみながら食文化に関する知識と関心を深められるよう工夫しています。また、五味体験では実際に「甘味・塩味・うま味・酸味・苦味」を味わい、八十八夜では緑茶・玄米茶などの数種類のお茶を用意し飲み比べをしています。そのほか、昆布や鰹節などの出汁の味比べを行っています。食に関するさまざまな体験を通じ食への興味関心を育てています。
3	タイトル	子育て支援事業「なかよしひろば」に加え、一時預かり事業や園庭開放を通して、地域全体で子どもを育てる環境づくりに取り組んでいます
	内容	地域貢献の取り組みとして、子育て支援事業「なかよしひろば」を年20回程度(4月と8月を除く毎月開催)実施しています。具体的な内容として、離乳食講座・夏のスキンケア講座・クリスマスアレンジ講座・作って遊ぼうなどを開催しています。加えて、一時預かり事業や毎日園庭開放(9:30~11:30)を実施しています。そのほか、ポニーの乗馬体験などに地域の親子の参加を呼びかけ、園児と一緒に楽しんでもらっています。このような活動を通して、共に協力して地域全体で子どもを育てる環境づくりに取り組んでいます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	事業継続計画(BCP)を作成するプロセスにおいて、リスクマネジメントについても改めて強化を図る価値が認められます
	内容	運営に係るリスクについて、リーダー会議で対策を検討しています。具体的な対策として、今年度避難訓練を見直しています。避難訓練の意味を再周知するとともに、様々なケースを想定して実施しました。今後は、ヒヤリハットの提出推進と分析方法を確立させていきたいと考えています。一方で、職員自己評価の「リスクマネジメント」に関する項目では、全ての項目において職員の理解が進んでいない状況が確認されました。事業継続計画(BCP)を作成するプロセスにおいて、リスクマネジメントについても改めて強化を図る価値が認められます。
2	タイトル	職員の育成方針や研修内容について、作成中の中長期計画と連動していくことで、計画的に人材育成が行えると思われれます
	内容	職員が受講した研修内容は研修報告書に記録し、必要に応じて職員会議で報告することで他の職員と共有しています。ただし、研修報告書については作成が滞っていたため、今年度、再度周知徹底を図っています。今後、園内研修の内容や実施方法について見直しを行うとともに、他園への見学を通して職員の意識を高めていきたいと考えています。職員の育成方針や研修内容について、現在作成中の中長期計画と連動していくことで、計画的に人材育成が行えると思われれます。
3	タイトル	保育理念を実現するための保育手法について、マニュアルや手順書を作成し、標準化を図っていきたいと考えています
	内容	園の保育理念を「豊かな心と感性を育てる」、保育目標を「子どもの主体性を育てる保育・子ども一人一人の特性に応じた保育・自発的な遊びの中で子どもの力を引き出す保育・子ども同士の関わりを通し、コミュニケーション能力を育てる保育」と定め、主体性を育む保育の実践や地域交流の推進に取り組んでいます。ただし、保育に関するマニュアルは作成しておらず、保育手法についてはその都度職員会議などで話している状況です。今後、保育理念を実現するための保育手法について、マニュアルや手順書を作成し、標準化を図っていきたいと考えています。